

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
4年後期	4	2	教職必修
担当教員			
松本 直己			
添付ファイル			

講義概要	教育実習や教員採用選考試験が終了し、卒業まで残り半年間であることを踏まえ、教職課程履修の総仕上げとして、これまで学び、身に付けてきた教員としての資質能力の一層の充実を図ります。		
授業計画	1	オリエンテーション 演習計画、教職実践演習（高等学校）とは、演習課題とレポート、評価方法	
	2	演習（エクササイズ） 教育実習を振り返って（自己評価と討論）。今後の課題の明確化	
	3	演習（プレゼンテーション）と討論 教育実習を振り返って（「教育実習録」の作成と提出）	
	4	講義と作業 教育職員免許状の取得申請手続き（ガイダンス）。提出書類の作成	
	5	講義と演習（ディスカッション） 「ICT教育とは」講義と意見交換	
	6	講義と演習（ディスカッション） 「教師に求められるICT活用指導力の向上について」講義と意見交換	
	7	講義と演習（ディスカッション） 「カリキュラム・マネジメントとは」講義と意見交換	
	8	講義と演習（ディスカッション） 「チーム学校について考える」講義と意見交換	
	9	講義と演習（ディスカッション） 「令和の日本型学校教育とは」に関する講義と意見交換	
	10	講義と演習（学級経営1） 学校危機対応マニュアルについて	
	11	講義と演習（学級経営2） 学校で起きる様々な事件・事故について。防災教育の推進と学校危機対応マニュアル	
	12	講義と役割演技（ロールプレー） ①教師不信の問題生徒に対する指導、②モンスターペアレント（保護者からの苦情）への対応	
	13	課題レポート作成1 「教職課程を履修して」（私の教職観）	
	14	課題レポート作成2 「教職課程を履修して」（私の教職観）	
	15	まとめと総合演習	
授業形態	・講義と討論 ・演習（エクササイズ）等により教育技法の習得と情報活用能力の向上を図ります。 ・事例研究により、学校教育活動で起こる様々な事件・事故・トラブルの基本的な対応策を身に付けます。 ・レポート作成により、4年間教職課程を履修した総仕上げとして、自分の教育観・教職観をまとめます。 アクティブラーニング：①：8回、②：8回、③：0回、④：0回、⑤：0回、⑥：5回		
達成目標	・教員として必要な常識・素養、論理的な思考力・表現力を身に付けること ・高校の教育活動に生かせるように、様々な教育技法・問題解決技法を身に付けること ・教職課程履修の総仕上げとして、自分なりの教育観・教職観を持つこと		
評価方法・フィードバック	演習の取組や発表、レポートの内容等により総合的に評価します。原則として、レポート等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。		
評価基準	秀＝目標達成90～100％ 優＝目標達成80～89％ 良＝目標達成70～79％ 可＝目標達成60～69％ 不可＝目標達成59％以下		
教科書・参考書	各テーマ課題に応じてオリジナル資料を適宜用意します。		
履修条件	教職志望者であること		
履修上の注意	学校教育に関するニュースや社会の動きなどに関心を持つこと		
準備学習と課題の内容	教職課程の総仕上げとして、1～4年前期までに履修した学習内容をよく復習の上、授業に臨むこと。（毎回、予習復習それぞれ1.5時間程度）		

ディプロマポリシーとの関連割合 (必須)	知識・理解:25%, 思考・判断:25%, 関心・意欲:25%, 態度:10%, 技能・表現:15%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	